

学校生協のなかま

2010年12月24日

復刊22号

生協労連学校部会幹事会

Tel 03-3408-0067

Fax03-3408-8955

学校部会が大好きだ!!!



1年の締めくくりは学校部会で!

〔総会の舞台となった旅館『よぶこ』の前で〕

今年も残すことあとわずか。おそらく、この1年の出来事を走馬燈のように思い出していることでしょう。つらかったこと、楽しかったこと。いろいろあったことと思います。

そのなかでも、楽しかったことの筆頭に挙げられるのが、去る10月2日・3日に行われた第17回定期総会であって欲しい。われわれ幹事会としては、そう願わずにいられません。いえ、きっとそうに違いありません。ええ、それは隣の写真を見ればわかります。誰一人として笑顔でない人間はいない。これぞ学校部会です。



生協労連学校部会 第17回定期総会概要

日時 2010年10月2日(土)15:30～3日(日)12:00

参加者 総計27人

10単組24人(事務局含む)

講師1人(株エス・イーティー・クリエーション 佐藤裕陽営業部長)

来賓2人(九州地連 石橋芳隆委員長(エフコープ)、久保学書記長(かごしま))

会場 佐賀県唐津市・旅館『よぶこ』

進行 1日目

開会あいさつ

記念講演「営業活動の極意を学ぶ！」

講師：佐藤裕陽さん(株エス・イーティー・クリエーション 営業部長)

議案提案

夕食交流会

2日目

分散討論

全体会(参加労組からの発言)

議案採択

閉会あいさつと団結ガンバロー

記念講演「営業活動の極意を学ぶ！」

講師：佐藤裕陽さん(株エス・イーティー・クリエーション 営業部長)



これまでで最高の講演だった！

とは菅原部会長の感想だが、これは決してお世辞ではない。

今回講演をしてくださったのは、(株)エス・イーティー・クリエーションの佐藤裕陽営業部長。営業部長という肩書きから、やや年配の男性を想像されたかもしれないが、実際は若いオニイちゃんといった印象。しかし、その凝縮された人生の話には傾聴すべき点が多くあった。

キラリとひかる名言も！

話もうまく、キラリとひかる名言もいくつか飛び出した。いわく、「クイックレスポンスを心がける」「まず、目の前にいる人を大事にする」「重要なことはお客が教えてくれる」といった言葉だ。

これは、みんなの感想文にも散見されていたワードなので、多くの人の胸を打ったことは間違いない。

終わってみれば、講演テーマこそ「営業活動の極意を学ぶ！」といったキャッチーなものであったが、実際は「働くということは何か？」という、より根本的な問いを投げかける、非常に深い講演内容であった。



実り豊かな分散会でした



議論は3つのグループに分けて行われた。テーマは「昨日の講演を受けて」。なんのことはない、幹事の怠慢から事前にテーマを設定するということをせず、当日の風まかせにさせていただきのことである。

そして、あらためて佐藤さんの講演がメンバーの胸に強く響いていたことを実感。各グループからは、「帰ってからはレスポンスを早くしようと思った」など、佐藤さんの名言を引用しての、前向きな話が多く聞こえてきた。



狂乱の酒席から一夜明け、早朝から始まった分散会。「昨夜の様子じゃ、議論にならないのではないか」と、幹事としては気を揉んでいたところだが、その心配は杞憂に終わった。いざ議論がはじまれば、みな積極的に発言し、各グループは大いに盛り上がった。さすが、メリハリが効いているのも学校部会のいいところ。昨夜の飲み会は潤滑油としても機能したようだ。



だが、そう楽天的な話題だけでもなかった。サービス残業の実態が明らかにされ、事業連合や合併にともなう人員削減の問題が赤裸々に語られた。学校生協の経営難に伴う、賃金・一時金・労働条件の切り下げについても多く語られたのも今定期総会での特徴でもあった。それらについては石橋委員長や久保書記長にアドバイスをいただいたが、今後の課題として残された部分も多い。労組として、引き続き問題視していくべき課題であることを確認した。

思ったのだが、今回の講演会の成功の秘訣は、講演者および講演内容の「身近さ」にあると思う。これまではどちらかというと、その道の成功者・権威者あるいはベテランといった方が多く、われわれとの関係は「先生と生徒」の関係になりがちだったが、今回は佐藤さんの年齢が若いことや話し方が丁寧だったこともあり、いわば「同士」として素直に話を聞くことが出来た。

今後、講演のテーマや人選を考える際の参考にしたいと思う。

夜会 in 佐賀

さて、はじまりました。夜会 in 佐賀。写真を見ながら、透明なイカに舌鼓を打ったことを思い出してください。じゃんけん大会、楽しかったですね。



ありがとう！熊本学販・服部さん！！

幹事として、または夜の帝王として学校部会の精神的支柱だった服部さん。唯一の労組員だった服部さんが非労組員となり、熊本学販労組が解散することとなったため、学校部会を去ることになりました。

そこで、服部さんには内緒で、花束贈呈のサプライズ。こういったあたたかさ、やさしさは、他の労組にはない、学校部会ならではのものでしょう。

ありがとう！服部さん！あなたのカラオケの十八番、モーニング娘がもう聞けないのかと思うと、さびしくてしかたない。いつか帰ってくる日を待っています。



学校部会は続くよ、どこまでも。

以下の名簿が、2010年度の学校部会幹事名簿です。次年度はこのメンバーで精一杯奮闘します。

2010年度学校部会幹事

役職名	氏名	所属
部会長	菅原 一生(再)	岩手県学校生協労働組合
副部会長	鈴木 恵一(再)	みやぎ生協労働組合
事務局長	新良貴泰夫(再)	日本生協連労働組合
幹事	柿田 雄三(再)	日本生協連労働組合
幹事	島川 幹浩(再)	岐阜県学校生協労働組合
幹事	永尾 明人(新)	佐賀県学校生協労働組合
幹事	平野 国臣(再)	コープ熊本労働組合



さてさて、総会後の幹事会では、総会のふりかえりと、次年度方針が議論されました。

われわれ学校部会幹事会は、学校生協・用品会社で働くなかまのくらしと職場を守るため、精一杯努力してまいりますので、これからもどうぞよろしくお願いいたします！

ちなみに、左は生協労連事務所での幹事会での様子。この日、新良貴幹事は欠席でした。

コラム「虫の眼」 (文・新良貴泰夫)

第3回「おとなチャレンジ」

さてさて、師走である。もう少しであたらしい年が始まる。思えば、今年は様々なことがあった年であった。まず、引っ越した。そして結婚した。新婚旅行にも行った。それから、小学校時代の友人に「俺らのヒップホップ音楽に映像をつけてくれない？」と、ただビデオカメラを持っているというだけの理由で頼まれ、まったくの門外漢だからと一度断ったものの、結局引き受けた。要するにミュージックビデオというやつであるが、もちろん初挑戦。いっばいの不安と少々の自信のなかで、なんとかやり遂げた。

これらはすべて、普段のわたしであれば、なにかと言い訳をつけて先送りにしていたはずのものばかり。それを実行できたのは、ふとした拍子に最初の一步を踏み出すことが出来たからだろう。禁煙が最初の1本を我慢することから始まるように、新たなチャレンジは、ひとまず最初の一步さえ踏み出すことが出来れば、あとは惰性で続けられるものである。

だが、子どもの頃の一步と違って、大人の一步はとても重い。大人の靴には、社会的立場や一般常識とやらが重石としてまとまりついているからである。だが、それを一瞬でも脱ぎ捨ててみたらどうだろう。自分の思った以上に、大きな一步を生み出すことが出来るかもしれない。大人ならではの、スマートな歩き方ができるかもしれない。

「こどもチャレンジ」とはご存じのベネッセコーポレーションの教材であるが、チャレンジはなにも子どもや若者だけの特権ではない。「俺も(わたしも)若い頃は…」なんて、過去の話を持ち出すのはもうやめよう。大人でしか、いまのわたしにしか出来ないことがあるはずだ。そう、いま私たちに「おとなチャレンジ」の精神が必要なのだ。

ちなみに上記のプロモーションビデオは、検索サイトに「youtube newdegood」と打ち込むと見ることができます。タイトルは「GHETTO BLASTER」。正月の暇つぶしにでも見ていただければ幸いです。以上、宣伝でした。